

令和6年度 学校経営方針

令和6年(2024)4月1日

国立市立国立第七小学校

校長 小畑 行広

一学校教育目標一

かしこく

◎やさしく

げんきよく

(◎印 本年度重点目標)

1. 学校経営の基本方針

国際社会全体が混乱し、人と人との関わりが規制された時期を乗り越え、ようやく本来の人としての日常である社会生活を取り戻しつつある現在において、人間がよりよく生きることや相手意識をもって関わることの重要性を痛感する。

世界は、大きな難を乗り越えたにもかかわらず、人と人、国と国が互いの利害を超えた連携を基に地球規模で乗り越えていかなければならない課題を前にしながら、人の命をないがしろにしている現状がある。未来に勇気や希望をもち、よりよく生きようとする人を育てるためにも、今こそ、全世界的な視野に立って、よりよい社会を創造し、建設していこうとする意志が必要である。

私たち国立第七小学校は、これまでと同様に児童の安全と安心を最優先にしながらも、未来を視野に入れた国際的な指標であるSDGsが示す持続可能な社会の実現に向けて、未来社会の建設に寄与することができる児童を育成するために、本校の教育目標の重点「やさしく」の言葉の中に「**相手を意識した関わりと繋がり**」の意味を込め、心の教育を軸に学校生活や児童の学びを高めていく教育活動を展開する。

また、昨年度は、パワーアップ「チーム七小」として、教職員の力を最大限に結集した取組を展開してきた。チーム力を結集した取組や行動が児童の学校生活や教育活動を充実させることに繋がり、学校生活満足度調査や保護者アンケートに成果として表れている。

次の段階として、今年度は、本市が推進しているコミュニティ・スクールに向けた準備に入ることから、教職員だけでなく、地域やPTA並びに保護者、学校関係者と連携を図り、充実した教育活動が展開できるようにしていくために「**グレードアップ・チーム七小**」として連携拡大の取組を行う。

次に、本校は、「**未来を自ら切り拓く力を、子供たちに身に付けさせる学校**」を、学校経営の基本理念としていることから、全教職員が目前にいる一人の児童の個性や特性を知り、個別の多様性に対応しながら、それぞれの生き方を目指すことができる資質や能力を育成していくことが求められる。そのためには、本校にある全ての学年・学級・教室が緊密に連携し、連動して、保護者や地域の方々とよりよい関係を構築し、児童一人一人がその子らしくいられるための「**個別最適な学びと協働的な学びの一体化における推進と実践**」を目指す。

以上の基本方針の基に、3年目となった**重点目標「やさしく」の第3期**としての取組を継続し、児童の自己肯定感を更に高める取組を行うとともに、挨拶の主体的な実践や下学年や同学年の友達を大切にする優しい姿勢や行動のある学校生活を実現していく。

また、本校の特別支援教育の基盤である「特別支援学級 くるみ学級」、「特別支援教室 はばたき」「きこえとことばの教室」の教育活動の充実を図るとともに、本市が進める本市独自のフルインクルーシブ教育に呼応した特別支援教育における中心的学校として、教職員や児童、学校と連携する全諸機関とともに、関わりと繋がりにおける「**真のやさしさ**」を教育活動全体で目指していく。

そのためには、校内研究において研究奨励校として2年間研鑽してきた「特別の教科 道徳」を中心とした教育活動全体にわたる道徳教育を展開し、人との関わりにおけるスキルアップや心の働きや気持ちの有り様等を知り、学校生活に活かして、心の垣根を飛び越えていくことのできる心のバリアフリーの実現を目指す。更には、PTA並びに保護者、地域の方々にも協力を仰ぎながら、児童の主体的な挨拶の励行、関わりを深める言葉遣い等において協働した取組を展開し、学校関係者が連動した「**一体感のある心のバリアフリー**」の取組を実践していく。

本校の児童の安全と安心の中核には、開設10周年を迎えた七小見守り会の登校時を中心にした児童への見守りがある。この素晴らしい連携は、開校52年目を迎えた本校の地域連携の土台であり、七小の教育活動には、なくてはならない存在である。コミュニティ・スクールを目指していく上でも、地域と学校が協働して活動しているモデルであり、大切な連携である。

この連携を通して、本校の子供たちの安全を陰に陽に支えていただいている「見守り会」の皆様をはじめとする地域の皆様への「感謝」と「地域貢献への心情」を児童に高めさせる取組を展開するとともに、より高い協働活動へと推進していく。

本校の教職員においては、各人が教職員としての力量や能力を高めるとともに、自身の得意としている分野や専門性を見極め、現在の教育課題に対して解決のための取組や行動を起こしていくことができるように研鑽を深めることを目指す。また、自身の研鑽を通して身に付けた力を遺憾なく発揮するとともに、ユーモアのある対話が弾む明るく楽しい職員室であることにより、自身が関わる学年・学級の児童の生活が、明るく楽しい安心と安全の居場所となることをお互いに確認し合いたい。児童は私たち教職員の「鏡」であることを忘れず、昨日より今日、今日より明日へと自身の成長を刻んでまいりたい。

最後に、本校の強みは、目の前の一人の児童を大切にしたい学校運営並びに学年・学級運営を行うことができるということである。つまりは、教職員の一人一人が本校の子供たちのために必要なことをそれぞれの立場や役割において考えるとともに、必要な手立てを講じていくことができるという「**自分事**」にしていくことができる**教職員集団**である。

この強みを生かすためには、毎年、教職員の入れ替わりがある状況においても、全教職員の取組の状況を共有しながら、私たち自身が健康で、しなやかな心身の下に「**今、目の前にいる一人の子供に必要なこと**」を学習面でも生活面でも実践し、本校の経営の基本理念である「未来を自ら切り拓く力を、子供たちに身に付ける学校」として、更なる発展を目指していく。

2. **グレードアップ・チーム七小の基本姿勢**

(1) **授業力の向上を常に目指す。**

- 重点目標である「**優しく**」の達成のために、「**特別な教科 道徳**」を校内研究の教科とし、授業研究を継続する。また、**他教科においても**研究奨励校として研鑽して得た学びを活用して、**授業改善**を図っていく。
- 教員として**自身の専門性**を見つめ、研修・研鑽することを通して、「**楽しく、分かる授業**」や「**児童が主体となるアクティブな授業**」を創造する。
- 「**授業参観・公開授業・授業観察**」において、**誰もがいつでも見合える環境づくり**に取り組み、学びと成果を共有し合う。
- 子供たちの学習に対する思いや考えを見取るためのアンケート等の手立てにより、**子供の実態を把握**して、授業改善に活かす。
- 学年において、一部の教科を交換するなどの教科担任制の取組を検討し、実践することによって、授業改善を図る。

(2) **信頼ある開かれた学校づくりに努める。**

- 児童の丁寧かつ適切な見取りと環境設定による「**個別最適な学び**」の実践と、**情報共有に**

- よる家庭との協働的な取組を基にした保護者に寄り添う支援により信頼関係を築く。
- PTAや見守り会等の地域の関係団体との連携を図り、学校教育との連動や教員の働き方改革の支援となるような取組を模索し、地域全体で教育活動を協働実践していく。
 - コミュニティ・スクールを見通した学校運営を行うため、学校評議員会における情報発信や啓発及び理解を図り、学校運営協議会への発展的転換により、信頼関係を継続させる。
 - 教育公務員として、チーム七小の一員であることに誇りをもちつつ、人としての振る舞いや言動に気を付けるとともに謙虚であることを忘れない。
 - 学校での児童の状況や体調不良、怪我等については慎重に対応するとともに、直ぐに報告・連絡・相談し、迅速な対応を行う。
※保護者への連絡は、子供の口ではなく、必ず担任（養護教諭）が伝える。
※首から上の怪我(歯を含む)には特に配慮をし、迷ったときには、受診を勧める。
※必ず、保護者に連絡し、管理職への「ほう・れん・そう」を確実にを行う。
「多忙」や「休暇」等による連携不足等は、理由にならないことを忘れない。

(3) 子供の世界や感性を尊重し、育成を図る。

- 「子供は、一人の人として、成長の過程にある。」ことを大切にするとともに、未来社会の人材であることを念頭において、育成を図っていく。
- 一人の人としての子供のもつ世界観や感性を認め、教職員のもつ世界観や感性と子供の思いや考えを共有し合えるような関係づくりを行う。
- 子供のもつ力や可能性を信じるとともに「協働的な学び」について、児童への関わり方等の共通理解を図り、子供の自立に向けた適切な指導や支援を行う。

(4) 今あるものを常に見直し、改善につなげる。

- 教育活動実施後の反省を適切なタイミングで実施し、本校に必要と判断したものは継続し、改善が必要なものは改善案を提示して反省を行う。必要であれば、年度途中においても改善を行う。
- 各教育活動の反省の時点で、次年度の計画に活かし改善を検討し、確認しておくことで、年度末の業務軽減に繋げるとともに、本校の短期的及び中・長期的な展望や見通しをもつようにする。
- 校務分掌等の組織的な対応において、自らが担当する職務や立場をよく知り、適切な情報発信や情報共有をするとともに自分事として捉え、協働した行動に努める。また、組織的な改善に向けた検討も重ねて行いつつ運営する。

(5) 未来を志向し、共有する。

- 特別な3年間を終え、今年度開校52年目を迎える。本校として必要な取組や教育活動を模索し、地に足を付けた学校運営を行いつつ開校60周年を目指していく。
また、開校55年目や60年目の本校を創造し、見通しながら、中・長期展望を教職員及び地域の代表である学校評議員会、保護者の代表であるPTAと共有していく。
- 本校の未来を創造し、学校課題や学年・学級課題を自分事として捉え、チーム七小として様々な取組を検討したり、提案したりしながら、よりよい七小創りに貢献できる教職員としての自覚をもつ。
- 本市が目指すフルインクルーシブ教育やコミュニティ・スクールを視野に入れ、今年度の様々な教育活動や取組について評価や検討する視点として考え、よりよい教育活動を模索し、検討や改善、精選を図る。また、学校評議員会やPTA並びに保護者等への理解啓発を行い、七小地域全体で未来の七小のイメージを共有していく。